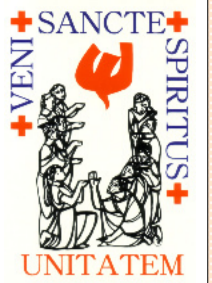


2021年11月14日 (第204号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉

思考に気をつけなさい、
それはいつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい、
それはいつか行動になるから。
行動に気をつけなさい、
それはいつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい、
それはいつか性格になるから。

2023年シノドスに向けて わたしはいつもあなたとともにいる

10のテーマ 小教区で分かち合いを

2023年10月にシノドス(世界代表司教会議)第16回通常総会がバチカンで開催されます。
教皇フランシスコは、シノドスのテーマを「ともに歩む教会のため・交わり、参加、そして宣教」と定められました。10月10日には聖ペトロ大聖堂で、教皇司式のシノドス開幕ミサが行われ、また10月17日には、全世界の教区において、シノドスの開幕が祝われました。

シノドスでは、教会にゆだねられた使命に従って福音をのべ伝える教会の刷新

「シノドス」のテーマ・ねらい
①シノドスのテーマ
ともに歩む教会のため・交わり、参加、そして宣教

②シノドスのねらい
社会の福音化に向かう「教会の在り方」を再確認する。

③基本姿勢
代表司教たちの「イベント」ではなく「神の民」の固有の役割(召命)を通して、課題を分かち合い深い合うプロセスを大切にします。
バチカンと地方教会との関わりを大切にし、信徒の方々の参加、その声に耳を傾けることを大切にします。

「シノドス準備文書」のポイントの言葉

「シノドス準備文書(日本語訳)」は16ページにわたる長文です。
ここでは3つのポイントとなる言葉を紹介いたします。

1 ともに旅をする教会
(第二バチカン公会議で提唱された言葉)

教会はキリストの体に向かう旅の途上にあります。(私の教会からキリストの教会へ)

社会において「神の民」として交わりに生きる教会は、聖霊の働きによって、さらに貧しく、「小さくされた人々の側」にたち、その方々に耳を傾け

2 シノドス的な教会
シノドス的な教会とは「交わり・参加」という教会の本質を表す言葉です。私たちは、洗礼・堅信の秘跡によって、キリス

3 シノダリティ(交わり)の実践
(神の民に意見を求めるための道筋)
福音を告げながら「ともに旅をする教会」は、神の民の具体的な生活に根ざしています。

シノドスとは「ともに歩む」という意味のギリシヤ語、また、定時に会合する司教たちの集会のこと

シノドス準備文書とは
シノドスの準備のため、バチカンから「シノドス準備文書」が発出されました。(カトリック中央協議会のホームページに掲載)

トの使命である「祭司職・預言職・王職」に招かれ、神の民として社会の福音化の能動的な奉仕者となるのです。
「ともに旅をする」こと
によって、多様なたまもの・カリスマの人々との出会い、全ての人の善を追求し、その交わりが全人類の一致のしるし・道具となることを願うので

「ともに旅をする」こと
によって、多様なたまもの・カリスマの人々との出会い、全ての人の善を追求し、その交わりが全人類の一致のしるし・道具となることを願うので

「ともに旅をする」こと
によって、多様なたまもの・カリスマの人々との出会い、全ての人の善を追求し、その交わりが全人類の一致のしるし・道具となることを願うので

「ともに旅をする」こと
によって、多様なたまもの・カリスマの人々との出会い、全ての人の善を追求し、その交わりが全人類の一致のしるし・道具となることを願うので

「ともに旅をする」こと
によって、多様なたまもの・カリスマの人々との出会い、全ての人の善を追求し、その交わりが全人類の一致のしるし・道具となることを願うので

「ともに旅をする」こと
によって、多様なたまもの・カリスマの人々との出会い、全ての人の善を追求し、その交わりが全人類の一致のしるし・道具となることを願うので

シノドスのための祈り
Adsumus Sancte Spiritus
(聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立っています)



For a synodal Church
communion | participation | mission

聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、あなたのみ名によって集いませう。
わたしたちのもともと来て、とどまり、一人ひとりの心にお住まいください。
わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。

無知によって誤った道に引き込まれず、偏見に惑わされないよう導いてください。あなたのうちに一致を見いだすことができますように。

わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。
このすべてを、いつどこにおいても働いておられるあなたに願います。
御父と御子の交わりの中で、世々とこしえに。アーメン。

弱く、罪深いわたしたちが、一致を乱さないよう支えてください。

はばたき

インマヌエル(主と共に)

9月下旬になると美しく咲く「白い彼岸花」。凜と茎が伸び、手を天に広げる様に、また、祈っている様に咲きます。自然の営みの不思議です。
その横の無花果の木に沢山の実がなるのですが、いつも鳥との競争です。食べ頃をよく知っている鳥は毎年負けています。鳥さん沢

りの実をちぎる私。
公開ミサが始まったら、慈しみの神様に心から！熱心に！ミサに参加しようと思っっています。
ミサに参加できる幸せを最後にアフガニスタンの方々のために祈りたいと思います。教皇様のお勧めに倣い、一日一回の小さな我慢、小さな断食を今は決心し、実行しようと思っ



「シノドス準備文書」日本語訳

(シノドス関連ページへ続く)

探求すべきテーマの要点(分かち合いのテーマ)

「シノドス準備文書」では、「分かち合いのための10のテーマ」が示されています。けれども、全てのテーマについて分かち合う必要はありません。ここでは6つのテーマについて、具体的な質問の形で要点を紹介します。

1 旅の同伴

教会でも社会でも、私たちは同じ道を並んで進んでいる。

- ① 私たちとともに「旅をする」のは誰ですか？
- ② 「わたしたちの教会」というとき、誰がその一部でしょうか？
- ③ 誰が、私たちに、ともに旅をすることを望んでいるでしょうか？(福音マーケット)
- ④ またどういう人、グループが取り残されているでしょうか？

2 聴くこと

聴くことは最初の一步だが、それには偏見のない開かれた精神と心が必要である。

- ① 誰に対して「耳を傾ける必要がある」でしょうか？
- ② 信徒・若者・女性に、どのように耳を傾けてもらっているでしょうか？
- ③ 修道会(男女)の奉獻は、どのようにかわっているでしょうか？
- ④ 少数派(マイノリティー)や見捨てられた人、排除された人の声に耳を傾ける場はありますか？

3 自分の考えをはっきり声に出す

すべての人は、勇気をもって、気兼ねなくつまり自由に、愛を持って、真実を話すよう招かれている。

- ① わたし(わたしたち)は、自分の信仰をはっきりと表明していますか？
- ② 教会の中でも社会においても、勇気をもって、

4 典礼



「ともに歩む」ことは、ともにみことばに耳を傾け、感謝の祭儀を行うことに基づいている場合に、はじめて可能である。

- ① ミサや典礼はわたし(わたしたち)やわたし(わたしたち)の生活を生かすものになっていますか？それはどうしてですか？
- ② それを生かすためには、どうしようと思えますか？
- ③ どのような参加の仕方がいいと思えますか？
- ④ わたし(わたしたち)は皆一緒に祈っていますか？
- ⑤ 朗読や祭壇の奉仕をするとき、心がけていることは何でしょうか？

5 わたしたちの共通の使命(宣教)に対する共同責任

「ともに歩む」ことは、すべての人が参加するよう招かれている、教会の使命(宣教)に奉仕するためである。

- ① すべてのキリスト者は福音宣教者であることを自覚しているでしょうか？
- ② 誰に対して福音を伝えようとしているでしょうか？あるいは、誰に対して伝えないといけませんか？
- ③ 宣教をなおざりにしている分野あるいは領域がありますか？
- ④ 信者が活発に宣教しようとするのを、妨げるものは何でしょうか？
- ⑤ 福音宣教を誰かに任せきりにしていませんか？ともに福音宣教を行おうとしていますか？どうしたらともに福音を伝えることができると思えますか？
- ⑥ どのような形ややり方(社会福祉、政治活動、科学的探究、教育、社会正義の促進、人権擁護、環境保全など)で福音を伝えていきますか？あるいは、伝えようと思えますか？
- ⑦ 教会共同体は、さまざまな方法で社会に奉仕する信者を、どのように支援しているでしょうか？

6 教会と社会における対話

対話のためには根気強さと忍耐を要する。しかし対話は相互の理解を可能にする。

- ① 意見が違う人たち、違う信仰の人たちとも対話を行っていますか？彼らと対話をしよう、関わろうとしていますか？
- ② わたしたちの教会で、何が対話の場や手段になっているのでしょうか？
- ③ わたしたちは、近隣の教区、地域内の修道院、信徒の団体や運動体などとの協働を、どのように推進しているのでしょうか？
- ④ 教会と社会の中で、わたしたちが特に注意を向けている問題はありますか？
- ⑤ わたしたちは、ほかの諸宗教の信者や、特に宗教を信奉していない人々と、どのような対話や協働の体験をしているのでしょうか？
- ⑥ 教会は、社会のほかの分野(政治、経済、文化、市民社会、貧困生活)の人々とのように対話をし、何を学んでいるのでしょうか？



以上

コロナ禍に思う

カトリック医療従事者として

医療関係の仕事に従事しておられる3人の信者さんに、コロナ禍に関して寄稿していただきました。

コロナ禍に思う

ソーシャルワーカーとして

鳴門教会 橋本正士
独立型ソーシャルワーカーとして、権利擁護(成年後見)の現場にいて思うことをお知らせします。

対象者は主に障害者や高齢者で、病気や障害または困窮等々の事情を抱えています。コロナ禍の以前は、不潔・不衛生や悪臭等に躊躇せず訪問し面談ができていました。状況の把握とご本人と面談からニーズを探り、同意を得て各種サービス機関や行政機関との調整(ソーシャルワーク)を行っていましたが、しかし、コロナ禍では十分な感染対策ができない方を訪問するのは怖いのです。万が一、自分が感染しても他人には感染させないと覚悟はしています。徳島県内最大のクラスターが発生した病院にもクライアントがいて、クラスターが落ち着いても訪問の際は他とは違う緊張をします。

信仰やお祈りでウイルスをブロックできれば・・・と、願わない日はありません。コロナ禍ではソーシャル

ワークのあり方が、コロナ禍以前と変貌しています。病院や施設で暮らすクライアントとの面談は、リモートで行われたり応接室でアクリル板越しに行われるので、日々の暮らしの現場を視ることができず、ご本人が困難です。ターミナル期のクライアントと面談できなかった思えば、言葉では表現できません。ご自宅にいる方との面談も感染対策のため短時間を意識すると、傾聴が疎かになりがちでした。

コロナ禍以前と同等か或いはそれ以上のソーシャルワークを行えるかどうか？以前よりも病院や施設のスタッフとコミュニケーションを取り、連携・協力の場が増えています。亡くなったクライアントと自分のワークを振り返り祈ることが増えて、振り返りと祈りで気づいた事もいくつかあります。

コロナ禍は、自分の所為ではなく自分の手が届く問題ではありませんが、自分が行うソーシャルワークの質が低下・劣化・悪化するのには甚だ遺憾です。この記事の執筆を期に、自分が変化(成長)しなければいけない時期なのだろうと思えます。

シノドスは質問の「答え」を求めているのではありません。

そのテーマについて教会などで話し合っ
てほしいのです。

それによって「旅する教会」が新しい
姿へと刷新されることを、シノドスは
望んでいます。



- ① ミサや典礼はわたし(わたしたち)やわたし(わたしたち)の生活を生かすものになっていますか？それはどうしてですか？
- ② それを生かすためには、どうしようと思えますか？
- ③ どのような参加の仕方がいいと思えますか？
- ④ わたし(わたしたち)は皆一緒に祈っていますか？
- ⑤ 朗読や祭壇の奉仕をするとき、心がけていることは何でしょうか？

- ① ミサや典礼はわたし(わたしたち)やわたし(わたしたち)の生活を生かすものになっていますか？それはどうしてですか？
- ② それを生かすためには、どうしようと思えますか？
- ③ どのような参加の仕方がいいと思えますか？
- ④ わたし(わたしたち)は皆一緒に祈っていますか？
- ⑤ 朗読や祭壇の奉仕をするとき、心がけていることは何でしょうか？

- ① ミサや典礼はわたし(わたしたち)やわたし(わたしたち)の生活を生かすものになっていますか？それはどうしてですか？
- ② それを生かすためには、どうしようと思えますか？
- ③ どのような参加の仕方がいいと思えますか？
- ④ わたし(わたしたち)は皆一緒に祈っていますか？
- ⑤ 朗読や祭壇の奉仕をするとき、心がけていることは何でしょうか？

コロナウイルス感染症と口腔ケア

丸亀教区

歯科衛生士 夏見まみ

榎木恵一氏(神奈川県川崎市立大学副学長)は、日本歯科医師会HPの中で「ニューノーマル時代の歯磨きの新しい意味とは？」と題した文を掲載しているのをご紹介します。

「Isho」は科学雑誌「サイエンス・イムノロジー」に掲載された論文で、口腔は新型コロナウイルスの増殖部位である可能性を紹介しています。新型コロナウイルスの生体内侵入に必要な分子が、口腔粘膜、唾液、舌苔にあることを発見し、口腔が新型コロナウイルスの感染の入り口になることを示しています。

多いと思いますが、この歯磨剤に含まれる成分に、ラウリル硫酸ナトリウムがあります。最近の研究では、この歯磨剤や洗口剤に広く使われている複数の成分(テトラセチン、ラウロイルメチルタウリン酸ナトリウム、ラウリル硫酸ナトリウム等)が、新型コロナウイルスの生体への結合や侵入をブロックする可能性を明らかにしました。

このように口腔内に侵入してきた新型コロナウイルスは、歯磨剤を用いた歯磨きで感染を予防できる可能性があります。また、口腔に感染している新型コロナウイルスは、歯磨剤を用いた歯磨きでウイルス量を減少させることも期待されます。歯磨剤を用いた歯磨きは、むし歯や歯周病の予防と同時に、ウイルス感染対策という新しい役割が期待できるのではないのでしょうか。

歯磨きは、誰でも気軽にできる健康のための第一歩です。ぜひ、歯磨きを積極的にしていきましょう。また、唾液はウイルスや細菌の病原体に対する防御因子が含まれています。唾液を枯渇させないためのマスクに加えて、シッカリ唾液を分泌させるために咀嚼回数を増やしたり唾液腺マッサージをするのも良いでしょう。

口腔を清潔にするために、歯磨剤を使用している人が

土庄町

ワクチン接種の話

高松番町教会

ルカ 岩井敏恭

コロナ禍を医療従事者としての視点で教区報に書いてほしいとの依頼を受けましたので思うところを。私は昨年3月に小豆保健所長を定年退職し、現在は小豆島中央病院の非常勤医師として豊島診療所と特別養護老人ホーム等4カ所の担当医をしています。あれこれ書いても散漫になりますので、土庄町のワクチン接種

について書きます。今年に入ってからワクチン接種が始まりましたが、小豆島中央病院の方では週に1回程度するのが精いっぱいとのこと、3月ごろから町の課長とワクチン戦略を詰めてきました。医師1人でも1日300人くらいまではやれるでしょうということ、週に3から5日各地域を廻って実施することになりました。もちろん自分が担当の老人ホームも実施し、結局医師1人で3千名程の2回接種終了しました。(もちろん、地元の開

業医の方々もそれぞれのクリニックでほぼ同数の接種をしてくれました。)6月末までに豊島(てしま)の16才以上希望者500名程と特養ナオミ荘、知的障害者施設みくに園の入所者と従業員に2回終了。豊島は無医地区で、私が17年前に巡回診療所を開設した所です。今でも週に2回診療していますが、それまでも豊島島内の患者発生はゼロを継続しており、島外からの持ち込みに戦々恐々としておりましたからワクチン終了の安堵感は大きかった。

6月17日にはマリアの園も2回終了、2人のシスターにも打てました。ホームは閉鎖空間で入所者と従業員を入れると土庄のホームは200名以上、マリアの園でも100名はいます。春ごろに高松のホームでのクラスターが報告されましたが、小豆島では病院の受け入れ可能数も少なく、コロナ陽性者をフェリーに乗せて高松まで搬送するの一回に1、2名です。もしクラスターが発生したら大多数は「籠城」状態で出来る

治療も限定され、文字通り「看取る」しかないという現実がすぐそこまで迫ってあり、まさに「びびって」おりました。そういう状態でしたからワクチン2回終了の安堵感は大きかったです。現在はデルタ株が流行し、ワクチンも絶対的とはまでは行きませんが、それでも死亡率の低下は間違いありません。

定年退職後ではありませんが、長年小豆地域で活動し、行政や病院との人脈も豊富ですので県内他の市町とくらべてもワクチン接種はかなり先行できたと思っています。退職時期はまさにコロナ禍が始まった時で、実際のコロナ対応については傍観する立場になったわけですが、ワクチン接種という課題が眼前に現れ、実際の接種業務には大勢の方々、その多くは昔土庄町立中央病院で一緒に働いたベテラン看護師が集まってくれました。その連中の活躍は本当に素晴らしかったです。孤軍奮闘のつもりが大勢の支えでやり遂げられました。主のお導きを実感しています。

地区・ブロックの話題

徳島地区

「とくしま地区報」創刊号発行に寄せて

徳島地区

今年8月15日、聖母被昇天祭に、徳島地区(徳島・鳴門・阿南)の3教会が合同の「とくしま地区報」の創刊号を発行しました。

その趣旨は、徳島地区も「共同司牧」になり、3教会がよく知り合い、協力し、支え合いながら、ともに歩むための一つのしるしだということ。

これまで各教会では機関誌を年に数回発行していましたが、その内容は各教会の記事がほとんどでした。

3教会の交流が行われるのは、合同懇話会、教区民の集いだけで、参加者もだいたい同じメンバーであり、信徒たちがお互いの事や教会の事を知る機会はほとんど



徳島地区報創刊に寄せて

カトリック高松教区司教 諏訪榮治郎

神学生であったとき、神学院の地下倉庫には誰も気づかれないで30〜40年たった歴代の不用品(カビの生えた運動用品や衣類など)が山と積まれていました。見るに見かねた私は一人でせせと一週間

「真の教会」を現す言葉です。とありますが、この言葉をふまえながら、今後、年に1回発行予定の「とくしま地区報」が、徳島地区の教会誌として充実していくことを願っています。

2020年5月30日に再建した八幡浜教会は、聖母幼稚園の駐車場に小さな堂として建設された。そのため、倉庫と見間違えう方もあることから、この度、聖堂入り口に看板、正面と背面に外壁十字架を設置した。

これに用いた木材は、旧聖堂(1950年9月献堂)の祭壇の聖室光背に使っていたものを再利用した。看板文字は申神父により描かれた。

愛媛地区

八幡浜教会新聖堂 看板と外壁十字架設置

2020年5月30日に再建した八幡浜教会は、聖母幼稚園の駐車場に小さな堂として建設された。そのため、倉庫と見間違えう方もあることから、この度、聖堂入り口に看板、正面と背面に外壁十字架を設置した。



八幡浜教会 (写真上2枚) 建物正面 (写真左下) 建物背面

子どもと女性をまもる委員会

聖職者による性的虐待

相談窓口

電話番号：087-831-6659

相談窓口受付時間
月曜日から金曜日(祝日除く)
午前9時~午後5時

高松教区対応チーム

司教書簡をガイドに

主の祈り 黙想と分かち合い

今年度の司教書簡「主の祈りを黙想する」では、私たちが日頃唱えている主の祈りについて、ゆっくりと立ち止まって、祈りの一つ一つの意味を考え黙想することが勧められています。今号でも皆様の思いをお寄せいただきました。紙面を通してより多くの方と分かち合いたいと思います。引き続き投稿をお待ちしています。

高知地区から 主の祈りに 思いを寄せて

☆ 「私たちの罪をお赦しください。私たちも人を赦します」

この祈りはとても難しく前半の祈りを強く唱えながら後半の言葉を小さな声でしか唱えられない。自分は赦されたいと願いながら人を赦すことの難しさに苦しむ。赦すという事と忘れる事とは同じではない。相手



☆ 日々の祈りの中で、主の祈りを唱えてはいるものの、その祈りに込められた意味は図り知れないものがありました。ただ、この祈りにより、安心感に満たされま

その内容、意味、込められた想いを読むと深い愛がある事に気づきます。今後の祈りにしても、大切な想いを抱きながら祈ることができるようになります。

☆ 主の祈りはいつも私の心

にあります。昼も夜も眠っているときも目覚めれば主の祈りが口の上ります。この2年コロナ禍にあっ

て私の口ザリオの珠一つ一つが主の祈りに置き換えられました。聖母の御心はイエス様の御心と一つです。私の思考の中では主の祈り、

山上の説教、放蕩息子の話、導いてくださった事など、そして辛い時や苦しい時、傷つけられた時は、大きな声をあげ愚痴をこぼし、共に担って下さい、弱い私を助けて下さいと私の一番の味方にお話しします。イエス様が十字架でおっしゃったように、彼らは何をして

私達は社会悪、構造悪の中に組み込まれ、気づいてか気づかずか、流されて生きています。今必要なことはあらゆる出来事を通して、神様の働き、呼びかけに耳を傾けること、生活を

見直して常に善を選び、義と平和を求めて歩むことではないでしょうか。『文明は人を幸せにしない』とある社会心理学者が言っています。豊かさは人に分配されてこそ初めて豊かになると。祈りは御父に届きます。絶え間なく祈りましょう。『私たちの武器は祈り』です。

☆ いつもの私の祈りは、隣にいてくださる主に話しかけることから始まります。『聞いてください』という話しかけです。

毎日の生活の中での自分の思いや家族、友人、世の中のことなど、全部を存じなものでしょうが申し上げます。

そして多くは、すべての事を感謝申し上げる事です。生を受けうれしい事、喜びを感じた事、世の中の美しいものを見せてくださった事、いつもそばに居て守り導いてくださった事など、そして辛い時や苦しい時、傷つけられた時は、大きな声をあげ愚痴をこぼし、共に担って下さい、弱い私を助けて下さいと私の一番の味方にお話しします。イエス様が十字架でおっしゃったように、彼らは何をして

いるのか知らないのです。『お許しください』という言葉以外見つかりません。私達は社会悪、構造悪の中に組み込まれ、気づいてか気づかずか、流されて生きています。今必要なことはあらゆる出来事を通して、神様の働き、呼びかけに耳を傾けること、生活を

見直して常に善を選び、義と平和を求めて歩むことではないでしょうか。『文明は人を幸せにしない』とある社会心理学者が言っています。豊かさは人に分配されてこそ初めて豊かになると。祈りは御父に届きます。絶え間なく祈りましょう。『私たちの武器は祈り』です。

☆ いつもの私の祈りは、隣にいてくださる主に話しかけることから始まります。『聞いてください』という話しかけです。

『聞いてください』という話しかけです。



☆ 私が生まれてきた訳

隣人に出会う為、自然と交わり周りの人と交わり、協調して神の名によって愛を行う事。

私は私にだけの恵み(タレント)を預かって、この世に誕生しました。何もわからず生きてきました。とても大きな辛いことがいっぱいありました。途中、イエス・キリストと出会いました。なんでこんな目に私があわなければいけないの？と何度も何度も尋ねました。でも今は解っています。『すべての事には意味があった』という事が。少し昇華させられ神の思いに気づき、神と共にいるということが少し実感することができるようになりました。

あなたに感謝いたします。あなたが私を選ばれ、私はあなたから愛されているから。あなたの慈しみによって命を与えられた私。これからはもうふらふらしながらでも歩んでいきます。いつかあなたの御国に戻る時『あなたの大きな赦しと恵みによって隣人を愛することができました』と言えるように。すべての命の存在はあなたの愛によって

あることを心に深く刻みながら日々喜びの内に生きていきたいと思えます。

☆ 主の祈りを黙想しつつ 『私達のお父さん、御国が来ますように』と世界中の兄弟姉妹が今日も祈っているでしょう。若い時は、子育てに夢中、仕事にかまけてゆっくり座ってお祈りするという時間はあまり取っていなかったのでは・・・と思ひ出されてください！のくり返しでした。でも主の祈りは世界中の誰かが代わってお祈りをしてくださっていると信じゆだねる心があったからこそ、今日まで生きていられるかも知れないと考えると感謝でいっぱいです。

司教書簡を読んで 阿南慈子さん紹介

丸亀教会 太田肇子 阿南慈子(あなみいつこ)

さんの場合(司教書簡P4)を読んで、友人を通して知っている慈子さんをご紹介します。1954年京都府福知山市生まれ、翌年受洗。4歳から京都市在住。平安女学院短期大学キリスト教科、英知大学文学部神学卒業。1981年阿南孝也氏と結婚、一男一女(時也さん七星さん)の母。2000年11月7日帰天享年46歳。

31歳で難病の多発性硬化症と診断され、車椅子の生活となる。33歳で失明し、その後首から下の感覚をすべて無くすが、人口呼吸器を使用しながら多くのボランティアの口述筆記の助けを借りて、詩やエッセイ、童話などを執筆。

神様は慈子さんに大切な仕事を命じられました。『私がこんなに一人ひとりの人間を深く愛しているか、それを伝える手伝いをして欲しい。』

動く事が出来ない慈子さん。足に発病した頃

んの元で大勢の助け手を送って下さいました。それらをまとめた『花物語』『花かんむり』『花のかおり』『追伸花』『今生きて』を自費出版。『神様への手紙』シリーズ(1996年1月〜1998年12月、月刊PHPにエッセイを連載)。著書に『神様への手紙』(1997)、童話『もぐ子とお兄ちゃん』(1996)、『もぐ子とお兄ちゃん』(1999)、『共々PHPP研究所』、『ありがとうあなたへ』があります。

慈子さんの詩集からひとつ紹介します。『今 私か思うこと』

もし足が立ったら 祭壇に向かつてひざまづきたい。もし右手が動いたら 静かにいねいに十字の印をきりたい。もし左手が動いたら 親指と人差し指でロザリオをくりたい。もし両手が動いたら 胸の前で手を合わせ 祈りたい。もしきれいな声が出て息が長く続いたら 大好きな賛美の歌を歌いたい。もしこの目が見えたら 白いホステアのイエズス様を見上げたい。そして時也と七星を見つめたい。

これらの全ての思いをお母さまマリア様を通してお捧げします。み栄のために 喜んで。

み栄のために 喜んで。

2020年度カトリック高松司教区現勢調査報告

2020年12月31日現在

1. 信徒数概況

	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	合計
面積	1,876.78 Km ²	5,676.19 Km ²	7,103.63 Km ²	4,146.75 Km ²	18,803.35 Km ²
人口	949,358 人	1,327,462 人	690,211 人	721,721 人	3,688,752 人
前年度信徒数	1,515 人	1,521 人	664 人	645 人	4,345 人
信徒	1,513 人	1,500 人	638 人	649 人	4,300 人
司教・司祭	9 人	9 人	5 人	2 人	25 人
助祭	3 人	人	人	1 人	4 人
修道士	人	人	人	1 人	1 人
修道女	27 人	24 人	人	人	51 人
神学生	人	人	人	人	人
総数	1,552 人	1,533 人	643 人	653 人	4,381 人
前年度総数	1,554 人	1,556 人	669 人	649 人	4,428 人

2. 人員構成

司教	1 人
教区司祭	8 人
宣教・修道司祭	7 人
トミニコ会	6 人
オブレート会	3 人
スペイン外国宣教会	3 人
宣教・修道司祭小計	16 人
助祭	4 人
神学生	人
修道士	1 人
聖トミニコ宣教修道女会	44 人
松山修道院	11 人
北条修道院	8 人
新居浜修道院	5 人
坂出修道院	16 人
小豆島修道院	4 人
聖母被昇天修道会	6 人
修道女小計	50 人
教区外司祭	12 人

3. 諸施設

(1) 教区	25 所
小教区	2 所
巡回教会	1 所
(2) 修道院	1 所
男子修道院	6 所
女子修道院	6 所
(3) 教育施設	873 人
聖カタリナ大学	156 人
聖カタリナ大学短期大学部	725 人
愛光高等学校	1,032 人
聖カタリナ学園高等学校	642 人
愛光中学校	2,529 人
幼稚園 (22 園)	
(4) 医療 / 社会福祉施設	196 床
坂出マルチン病院	*29,593 人
高知聖園マリア園	57 人
高知聖園天使園	41 人
高知聖園ベビーホーム	50 人
特別養護老人ホーム聖マルチンの園	50 人
特別養護老人ホームマリアの園	63 人
特別養護老人ホーム白百合荘	55 人
特別養護老人ホーム聖マルチンの家	12 所
(5) 一般事業・その他	12 所

4. 教区内組織

- ・司教顧問委員会
 - ・司祭評議会
 - ・宣教司牧評議会
 - ・経済問題評議会
 - ・責任役員会
 - ・修道女連盟
 - ・典礼委員会
 - ・生涯養成委員会
 - ・青少年宣教司牧委員会
 - ・教会学校教師会
 - ・カトリックボーイスカウト・高生会
 - ・広報委員会
 - ・人権を考える委員会
 - ・諸宗教対話委員会
 - ・エキュメニズム委員会
 - ・(高松教区女性の会)
 - ・高松教区幼稚園連合会
 - ・神学生養成委員会(一粒会)
 - ・高松サポートセンター
 - ・外国人司牧・I C C
- ※ () = 休会中
*年間延べ人数

5. 信徒数動向

教会名	信徒数				洗礼 幼成	転出入 入出	死亡	堅信	初 聖体	求 道者	教会学校		ミサ参加			結 婚					
	男性	女性	総数	不明							信	未	主日	復活	降誕	①	②	③	④		
桜町	308	497	805	63	3	3	5	1	11	4	4	2	46	32	100	0	242	0	0	2	2
番町	64	99	163	0	0	0	2	0	2	0	0	0	4	0	30	0	130	0	0	0	0
小豆島	24	32	56	11	0	7	0	0	9	0	0	1	0	0	12	0	0	0	0	0	0
三本松	14	18	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	28	0	0	0	0
坂出	65	131	196	0	3	0	3	0	3	0	3	6	12	22	80	0	180	0	0	0	0
丸亀	73	92	165	10	7	3	0	0	0	0	3	1	5	1	50	0	100	0	0	0	0
観音寺	9	18	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0
善通寺	26	43	69	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	12	0	0	0	0	0	0
香川県計	583	930	1,513	84	13	13	10	1	26	4	10	11	67	55	339	0	680	0	0	2	2
松山	261	589	850	430	3	6	0	1	13	1	9	0	22	0	130	0	260	0	0	0	0
道後	53	109	162	18	0	1	2	0	3	0	0	7	0	0	52	0	102	0	0	1	0
今治	72	78	150	2	1	7	0	2	3	8	6	7	0	0	60	0	160	1	0	0	0
新居浜	65	92	157	8	1	0	0	0	2	0	0	0	11	8	50	0	100	0	0	0	0
西条	13	24	37	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	35	0	0	0	0
八幡浜	13	49	62	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	5	0	0	0	0
宇和島	18	43	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	21	0	65	0	0	0	0
伊予三島	8	13	21	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	40	0	50	0	0	0	0
愛媛県計	503	997	1,500	461	7	14	2	3	21	9	15	15	38	11	385	0	777	1	0	1	0
中島町	145	258	403	0	1	3	5	20	4	1	2	1	2	0	58	0	146	0	0	1	0
江ノ口	37	81	118	0	0	0	5	3	6	0	0	0	0	3	20	0	40	0	0	0	0
安芸	2	6	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	5	0	0	0	0
赤岡	10	15	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	7	0	0	0	0
中村	10	74	84	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0	0
高知県計	204	434	638	3	1	3	10	24	11	1	2	1	2	3	106	0	218	0	0	1	0
徳島	124	208	332	73	0	8	1	1	3	0	8	3	3	0	84	0	239	1	0	0	0
鳴門	74	106	180	0	0	0	0	0	1	0	1	1	7	3	30	0	80	0	0	0	0
阿南	40	54	94	0	0	0	3	0	1	0	0	3	0	0	12	0	30	0	0	0	0
池田	12	31	43	0	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0	15	0	60	0	0	0	0
徳島県計	250	399	649	73	2	9	4	1	5	0	11	7	10	3	141	0	409	1	0	0	0
教区総計	1,540	2,760	4,300	621	23	39	26	29	63	14	38	34	117	72	971	0	2,084	2	0	4	2
前年度	1,619	2,729	4,345	251	32	35	26	26	64	33	27	39	138	49	1,223	2,339	3,251	0	1	5	2

【結婚】 ① = カトリック同士 ② = カトリックと他のキリスト教 ③ = カトリックと他の宗教 ④ = 非カトリック同士